

令和 7 年度第 1 回羽島市環境審議会 会議要旨

日 時	令和 7 年 8 月 2 6 日（火）午前 1 0 時から午前 1 1 時まで
場 所	羽島市役所 3 0 1 会議室
出 席 者	<審議会委員> 9 名 細野光章委員、高橋利行委員、豊吉隆治委員、岩佐達男委員、 今井田明弘委員、大橋利正委員、井川幸恵委員、青木きの委員、 南谷里奈委員 <事務局> 8 名 松井市長、加藤生活環境部長、番生活環境部生活環境課専門官、 小池生活環境課長、澁谷環境事業課長、近藤生活環境課課長補佐、 臼井生活環境課環境対策係長、山木田生活環境課主査 <傍 聴>傍聴者：2 名
内 容	1. 開会 （資料確認） （委員紹介） 委員名簿に基づき、委員を紹介した。 （出席委員数の報告） 委員 1 2 名中、9 名の出席があり、羽島市環境審議会運営要綱 第 3 条第 3 項の規定により会議が成立していることを報告した。 （情報公開） 審議会は原則公開することとなっているため、会議要旨を後日、 羽島市ホームページにおいて公開することを報告した。 （傍聴者報告） 傍聴の申出が 2 名あったことを報告した。 2. 市長挨拶 3. 会長・副会長の選出 委員の互選により、会長に高橋利行委員を、副会長に岩佐達男 委員を選任した。 4. 会長挨拶 5. 報告事項 (1)「羽島市環境基本計画の進捗状況」について 事務局から資料に基づき説明 <質疑応答> 会 長： 事務局が計画を 1 年間進めてきたが、問題点や何か気 づいたことがあれば、意見をいただきたい。

内 容	委 員： 学校で進めている環境教育とともに、小学5年生が、総合的な学習の中で、タブレット端末にダウンロードした「羽島市の環境（児童版）」を使用している。 市が準備したイタセンパラの飼育・展示コーナーによって、子どもたちが羽島市にイタセンパラという魚がいることを知り、1年間楽しく学ぶことができた。 委 員： 高齢化に伴い空き家の数は増えていくと思うが、今後の予想や情報を事前に把握し、事前設計することで、適切に対応が進むのではと感じている。 事務局： 住宅・土地統計調査で状況を確認している。窓口での問合せや相談は増えているので、法律に則り、担当課でできる範囲での対応や検討を進める。 委 員： 食育食農は非常に大切だと思うので、子どもたちが田植え・稲刈りを体験し、食農の教育が広がるとよい。講師を紹介してもらえるとよい。 イタセンパラは二枚貝に産卵するので、学校の水槽に二枚貝を入れて、産卵したときの喜びを子どもたちに見てもらえるとよい。 委 員： アダプトプログラムについて、新規登録が3件だが、これまでに何件あるのか。登録している団体等を教えてほしい。 プラスチックのペレット化について、どこでやっているのか、実際に何に変わっているのか、教えてほしい。 事務局： アダプトプログラムの登録件数は、令和6年度までの合計が19件である。登録団体は、社会福祉法人や老人クラブ、地域コミュニティ等である。アダプトプログラムは、道路や公園などの公共の場所を自ら決めて、自分が里親となって清掃活動を行う制度である。 プラスチックの再商品化計画について、「プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律」に基づいて、国の認定を受けて令和6年10月から伊賀市にある三重中央開発株式会社に搬入し、再商品化事業をしている。 (2)「羽島市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）の進捗状況」について 事務局から資料に基づき説明 <質疑応答> 会 長： 取組みに対して、何か意見をいただきたい。 委 員： 二酸化炭素の排出量削減の目標値がかなり高いので目
-----	--

標の達成は難しいと思うが、約18%削減した主な要因を教えてください。公共施設での温室効果ガス排出量が半減できたのはなぜか。

事務局： 半減の要因として、公共施設への太陽光発電設備の設置や照明器具のLED化をしたことが考えられるが、電力会社の契約を一部変更し、再生可能エネルギーを使用したことも要因としてあげられる。

委員： 契約の変更に伴う削減であれば、今後の大幅な削減は期待できないと思われる。引き続き、取組みを進めてほしい。

事務局： 現在、公共施設のLED化を進めているので、大きく削減できるのではないかと考えている。

(3)「羽島市環境基本計画（骨子案）」について

事務局から資料に基づき説明

<質疑応答>

会長： 計画の改正をこれから考えていく中で、入れるとよいと思うもの等、何か具体的な思いがあれば、聞かせていただきたい。

委員： LRTについて、何年後くらいを目処に計画されているか、聞きたい。

事務局： 現時点では詳細な情報は公表されていないが、5年後の新計画策定の際には、状況が明らかになっているのではないかと。

委員： 保育園では、環境について学ぶことがないが、ごみのことや冷房をつけなくてよいときは使用しないことを、子どもたちに少しずつ伝えていく機会を設け、幼少期から環境に対する意識を持つことができるとよい。

会長： 保育園等から環境教育を行うよう計画に記載してはどうか。

6. 閉会